

<THE TOKYO TOILET> イベント 映画『PERFECT DAYS』TOHO CINEMAS BOAT

Toilet Topics 

2023年12月9日、未来を担う子供たちに向けたサステナビリティプロジェクト「TOHO CINEMAS BOAT」の第一弾として、渋谷区の「THE TOKYO TOILET」とのコラボレーションイベントが行われました。

「TOHO CINEMAS BOAT」はTOHOシネマズと東宝が実施する、映画体験による「思考形成」のプログラムです。映画を観て、その舞台や設定を実際に体験し、語り合う事で「自分の考え」を作っていくアクティブラーニングです。第一回目となる今回は、映画『PERFECT DAYS』を題材に、公共トイレにおける最高のメンテナ

ンス＝「きれいに使う」ことを意識付ける目的に、映画に登場するトイレの「清掃体験」、そしてスクリーンでの「映画体験」、それらをもとにしたワークショップが行われました。今回は渋谷区の小中学生15人が参加、本作のキャストでダンサーのアオイヤマダさんと共に、映画の世界と現実が交錯するような学びとなりました。



絶賛公開中

©2023 MASTER MIND Ltd.

第一部

「トイレ清掃を体験する」

劇中に登場する神宮通公園のトイレ「あまやどり」にて、実際にトイレ清掃を行いました。まずはアオイヤマダさんが、主人公を演じた役所広司さんのトイレ清掃から着想を得たオリジナルのダンス「トイレとんとん音頭」を披露、子供たちも一緒に踊りました。体も温まったこ

ろで、映画の清掃指導を担当した東京サニティションの方からレクチャーを受け、トイレ清掃に取り組みました。最初は戸惑う子どもたちでしたが、スポンジやブラシを手に細部までトイレを磨き上げ、「もっとやりたかった」「床清掃の機械が面白かった」など感想が聞かれました。



第二部

「トイレ清掃員が主人公の映画をみんなでみる」

TOHOシネマズ渋谷に移動し、映画「PERFECT DAYS」を鑑賞しました。ポップコーンを手にわくわくする子供たち。鑑賞後は「長くて疲れた」という子供らしい正直な感想から、「トイレ掃除が大変そうだった」など、清掃体験をしたからこそその感想など、子供たち皆がそれぞれの感性でしっかり映画を受け止めている姿が印象的でした。

第三部

「みんなで話し合う」

アオイヤマダさんがトイレをイメージした特注のドレスで映画の挿入曲にのせたオリジナルダンスを初披露しました。ダンス中には子供たちにスポンジを渡しドレス

の便器を磨いてもらう即興のパフォーマンスもあり、会場が一体となり盛り上がりました。その後、自分たちが清掃したトイレや、THE TOKYO TOILETのお気に入りのトイレの絵を描きました。映画館の床にスケッチブックを広げ、まわりのお友達と「私はこのトイレが好き」「木も書いちゃおう!」など、おしゃべりしながら自由に描き、最後は描いたトイレにニックネームをつけ一人一人が発表し幕を閉じました。



まとめ…子供たちにとっては五感や感性が刺激される貴重な体験になったのではないかと思います。アオイヤマダさんは「トイレって当たり前の存在。でも掃除してくれる人がいる。自分が使ったら自分できれいにすることを心に留めて過ごしたい」とコメントされていました。この体験を通してそういった思いが子どもたちにも伝われば…と思いました。



トイレ歳時記 3月

3月1日は防災用品点検の日
関東大震災が起こった9月1日の他、季節の変わり目となる3月1日、6月1日、12月1日が防災用品点検の日と定められています。能登半島地震をきっかけに防災用品を見直した方も多いのではないでしょうか?点検の際には3日ほどのトイレの備蓄も忘れずをお願いします。

編集後記

新年から大変な災害が起こりました。かわや版としては被災地の現状を少しでも多くの方に知っていただきたいと、交通が寸断され思うような救助や支援、ボランティアもできない難い状況の中で被災地入りした方のレポートをお届けしました。執筆時と発行までのタイムラグがあるため、現在では状況がまた変わっていると思われま。震災直後の被災地の様子としてお読みいただけたらと思います。(セルベッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

コンパ イイトレ
アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

http://www.amenity-network.net/
Amenity Network
[発行所] 株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2004 AMENITY INC. All rights reserved.

かわや版

トイレを楽しくする新聞

2024 春号
Vol.107

能登半島地震のお見舞いを申し上げます

能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

特集 能登半島地震 避難所現地レポート

2024年、お正月の能登半島を震度7の地震が襲いました。今回は、石川県小松市に本社を置き、トイレのパーテーションなどを手掛ける株式会社コマニーの高橋末樹子氏から避難所やトイレの状況について、レポートが届きました。



高橋末樹子氏
コマニー株式会社
研究開発本部 研究開発課
東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科で博士号(人間環境デザイン学)を取得。コマニー入社以来、ユニバーサルデザインに配慮した建築計画についての研究に従事。一般社団法人日本トイレ協会理事。

能登半島地震 避難所やトイレの状況

2024年元日の16時10分、石川県の能登地方でマグニチュード7.6(最大震度7)の地震が発生しました。1月7~8日に現地のサポートに入ることができたので、避難所やトイレの状況について報告いたします。被災地や避難所の状況は刻一刻と変わっていきま

す。発災から1週間後の避難所の状況としてご覧いただければと思います。能登地方に向かう道路が寸断され交通規制が敷かれる中、石川県の企業として何ができるのかを模索していたところ、輪島市から炊き出しの要請を受けて1月7~8日に輪島中学校に行きまいりました。輪島中学校には、当時約1,000人が避難をしていました。電気は1月4日から通りましたが、1月26日現在も断水が続いていて、復旧の見通しは2月~3月末とされています。

りまで我慢をして失敗してしまう方がいらっしゃるようでした。上の服は最悪毎日でも着られるが、汚れた下着やズボンは履き替えたい。お風呂に入れないうし洗濯もできないので、下着は本当に重要です。また、生理用品はたくさん届いていたのですが、おりものシートはほとんど届いていない状態で、女性に**おりものシート**は非常に喜ばれました。メディアで言われている必要な物と、実際の現場で必要とされている物は違いました。

次ページへ続く



支援物資

支援物資は、一見するとたくさん届いているようで、メディアで言われているような支援物資(おむつや生理用品)は輪島中学校には大量に届いていました。避難所の方に必要な物を聞くと、真っ先に出てきたのが「**下着(パンツ)とズボン**」です。輪島は高齢の方が多く、トイレ環境もよくないのでギリギ



今回避難所となった輪島中学校(輪島中学校ホームページより)避難所開設で授業再開の目途が立たないことから、希望した生徒は1月17日より石川県白山市に集団避難をしている。

前ページより

避難所の声『今、必要なもの』



愛媛県宇和島市のトイレカー(宇和島市ホームページより)今回は宇和島市の職員2名も派遣された。

食料事情

食べ物については、1月7日の夜に届けられたのが、おにぎり150個。1,000人いるのにたったの150個。これでは何の足しにもならないので、150個のおにぎりは他の避難所に回してもらい、避難所独自でお米を炊いてレトルトカレーを配りました。翌日の朝ご飯はもちろん届きません。昼ご飯に届いたのは、おにぎり450個。ただし全て賞味期限切れ。平時でしたら多少の賞味期限切れは食べられるものの、避難生活で疲労が重なっている状況では傷んだ食品で体調を崩すことが心配されました。そんな中、支援物資で届けられていたカップラーメンやカセットコンロが非常に役に立っていましたが、皆さん毎日カップラーメンで飽き飽きされていました。炊き出しの際には「ずっと野菜を食べていないので野菜をたくさん入れて」との要望を頂きました。野菜を取っていないので便秘になられている方も多く見受けられました。

トイレの状況

輪島中学校はまだ新しい校舎で幸いトイレが洋式だったので、便器に袋を

かぶせて携帯トイレを使っていました。ごみ収集がまだ行われていなかったため、汚物のごみが溜まる一方で、1月5日には仮設トイレが設置されましたが、和式であること、また雪も降る外に寒いことから、使っている人は少なかったです。1月7日に愛媛県の宇和島市から昇降機付きのトイレカーも届き、高齢の方に非常に喜ばれていました。しかし、昇降機の使い方が分からず、運用の仕方が課題となりました。

増える体調不良者

トイレには汚物処理のために、24時間体制で市の方が張り付いていました。汚物を触る人を限定して感染対策を行っていましたが、それでも7日の夜から体調不良者が続々始まり、あちで吐いている、こっちで吐いているという状況で、市の職員の方は嘔吐物の処理に走り回り、24時間連続勤務で食事まともにとれない方もいらっしゃいました。職員の方が倒れるのではないかと心配になるほど現地は過酷な状況でした。この後、他の自治体から応援が入り、避難所の環境改善が進められたそうで少し安堵しています。当初は体調不良の方のための隔離部屋が設けら

れましたが、そのうち人数が多くなり1フロア全体が隔離フロアとなりました。感染予防対策のためのトイレの衛生環境確保の重要性を改めて感じました。

水・トイレの大切さ

実際に現地に行って痛感したことが、水・トイレの大切さです。私自身もトイレが気になり、口を潤す程度しか水分を取らず、極力食べるのも控えていました。その間思ったのが「流水で手を洗いたい、ゴクゴク水を飲みたい、お腹いっぱい食べたい」という、人間として基本的なことでした。たった2日間の滞在でこれですから、被災された方のストレスは相当なものだと思います。この状況を少しでも改善できるように、これからも地元企業として活動してまいります。



一日も早い復興を願います。

まとめ

高橋氏によると、万が一トイレが使えないことも考え、大人用のおむつを着用して現地の炊き出しに参加されたということでした。幸い使う状況にはならなかったとのことですが、避難されている方はもちろん、支援に行く側にとってもトイレ環境の整備は重要な問題と感じました。このレポートの支援の後も継続して支援活動を行っているとのこと。1日も早い復興を願うばかりです。

ミネラルイオントイレ 被災地支援レポート



株式会社常陸 渡辺 盛将 社長

埼玉県にある株式会社常陸では、独自に開発したミネラルイオントイレで能登半島地震の被災地を支援しています。渡辺盛将社長にその様子をレポートいただきました。

ミネラルイオントイレとは

天然鉱物をイオン化させた触媒溶液で汚物を分解する仕組みを使ったトイレ。無菌・無臭・汚物の減容が特徴で、上下水設備が無くても大量の排せつ物を処理できることから節水対策や災害対策に大いに期待できる。公園、イベント、介護などで利用されている。



1月5日

能登半島の地震発生直後より、ミネラルイオントイレの技術でなんとか被災地のお役に立てることができないかと模索していたところ、多方面からアドバイスをいただき、立教大学の教授で防災のスペシャリストでいらっしゃる長坂俊成先生にご協力をお願いして被災地の病院や福祉施設にミネラルイオントイレを提供することが決まりました。

1月7日

第一回目の支援に向けて、小便器4台、大便器6台、テント2張、手すり2台、ミネラルイオントイレリキッド40Lの準備が整いました。リキッド40Lで小便4万回、大便5,000回の処理が可能です。有志の方からご寄付もいただき、明日の出発に備えます。



1月8日

雪が心配でしたがなんとか第一弾の支援を行うことができました。今回は七尾市の恵寿総合病院様、そして羽咋市のグループホーム福の神様にミネラルイオントイレをお届けしました。



1月10日

グループホーム福の神様から「利用者の方が立ってしか小便をできない方もいるのでとてもありがたい」と、ラインでいいねと感謝のスタンプ付きで運用状況のご報告をいただきました。支援の思いが届いてよかったと実感しました。



1月15日

グループホーム福の神様より、羽咋市では断水が解消されたとの連絡が来ました。ですがまた断水するという情報もあり、節水を心がけているとのこと。ミネラルイオントイレは断水でも使えるのであるだけで心強いといううれしいお言葉をいただきました。

1月29日

第二弾の支援で被災地入りしました。今回はグループホーム福の神様のご紹介で障害者支援施設石川県精育園様と志賀町の在宅避難者支援活動をされている方へと支援が広がりました。今回は輪島市にも足を運び惨状を目の当たりにして、改めて支援の手を止めてはいけないと痛感しました。また私一人で出来る事の微力さも感じました。一人一人が出来る事を少しでも取り組み、一日でも早く被災者の皆様が日常を取り戻せたら…。他人事では無く、次は我が街に訪れるかも…と感じる事が重要だと思います。



編集部より

自治体や自衛隊などの公的な支援があまり届かない民間の施設や自宅避難をされている方にもこうした支援が届いているということがわかりました。現状の避難所の仮設トイレや携帯トイレでは「臭い」「感染症」「廃棄物」などの問題があります。ミネラルイオントイレは「臭いが出ない」「無菌になる」「汚物の容量を減らせる」といった特徴でこのような問題を解決する糸口になるのではないかと期待しています。